



市内中学校の学力について

須藤 有紀（みどり 21）

動画は
こちらから



◎ 中学校教育における学力の重要度と指導方針、また、市内学力調査テスト結果分析は。

◎ 中学校教育における学力の育成は、生徒の将来の可能性を広げ、自己肯定感を高める人格形成の基盤となる。人口減少社会における生産性の向上や社会の維持にも直結する、極めて重要なものと捉えている。全国学力・学習状況調査の分析の結果、特に数学の記述式問題や理科の探究的な振り返りなどで、根拠を基に説明する力が着実に向上していることが分かった。

◎ 課題は。

◎ 国語、数学等で読解の部分も上昇傾向にあることは把握している。課題点があれば学校に働きかけていく。

◎ デジタル端末を低学年から使用させる必要性があるのか。

◎ 学校生活で日常的にICT機器を文房具の一つとして活用することを重視している。デジ

タルとアナログをバランスよく融合した魅力ある授業を展開していく。

◎ プロ野球元監督の問題もあった。常識や判断力を身につけたうえで、AIを活用していく情報リテラシー教育は。

◎ AI活用は今年度から利用可能となる。菊川市では、生成AI利用ガイドライン及び指導の手引を整備している。

他に「菊川市職員の仕事環境」について質問しました。



地域資源を活かす健康施策

藤原 万起子（市民ネット）

動画は
こちらから



◎ 県が昨年度公表した「お達者年齢」で、菊川市は男性2位、女性11位だった。近年は、健康で生きがいを持ち、地域で活躍できる期間を延ばす「ロンジェビティ」の考え方が注目されている。地域資源を活かし、健康寿命の延伸と地域活性化を一体的に進めることが重要と考え質問した。

◎ 健康寿命の延伸のため、市民の健康づくりに取り組んでいるか。

◎ 自身や家族の健康を意識した行動変容や疾病予防につながるよう働きかけている。

◎ 静岡ウェルネスプロジェクトについて、深蒸し茶、農業、食、地域フィールドなど強みをどのように活かしていくか。

◎ 県が産学官金連携プラットフォームとして「静岡ウェルネスフォーラム」を昨年度立ち上げ、市も加入した。地域資源を活かした事業の創出や高付加価値化など、静岡ウェルネスプロジェクトと連携し、地域活性

化や産業振興に取り組んでいく。

◎ 県が進める健康寿命延伸やウェルネス関連施策、ロンジェビティの考えを、今後のまちづくりにどのように活かしていくか。

◎ 健康寿命の取組は、福祉施策だけでなく、これまでの施策を進化、発展させ産業や観光などと連携し、一体的な取組により魅力と活力あるまちづくりを進める。全国トップクラスの健康なまちをPRし、菊川市や深蒸し菊川茶のイメージ向上や、心身とも健康で若々しくられる期間を長くする「ロンジェビティ」の視点を踏まえ、産業振興や交流人口の拡大につなげていく。

他に「大規模災害時のし尿・汚物処理計画」について質問しました。



出典：静岡県ホームページ